



ASTCアジア
トライアスロン選手権
2016 / 廿日市
4月29日(祝) - 5月1日(日)



特集 世界が 待っている

平成19年から廿日市市で開催されてきたみやじま国際パワートライアスロン大会。第1回大会から10年、今年はこちら廿日市市で4月29日から3日間、ASTCアジアトライアスロン選手権が、開催されます。

この大会は8月に開幕するリオデジャネイロオリンピックの大陸別選考会を兼ねた大会。アジア34の国と地域から選手や関係者が一堂に会します。

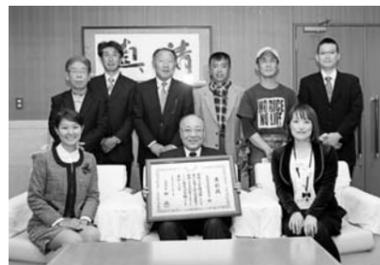
大会開催まで一カ月。選手・ボランティアなど大会に関わる人の姿を追いました。



優良公民館表彰受賞

原市民センターの活動が 全国で高い評価

原市民センターが第68回優良公民館表彰を受賞しました。センターでは子育て支援に力を入れて活動。「ママカレッジ・はらきっず」や「はらっこくらぶ放課後木曜教室」を開催しています。3月16日、原市民センターの運営に関わる関係者8人が眞野市長を訪問しました。はらキッズに携わる藤井真奈さんは「参加する親子が自然の中で心を通わせ、笑顔が絶えません」と話してくれました。



原市民センター運営に関わる皆さんと眞野市長。全国約1万7千施設の中から、77館が選ばれました。

大野10区依田神社修復

地域の遺産を 宮島工業高校生が補修

経小屋山のふもとに佇む依田神社(大野八坂地区)。幕末1866年、長州戦争の戦地となった四十八坂一帯。戦いのさなか、和睦に向かった幕府軍の使者依田半蔵は、長州軍に戦闘員と見誤られ狙撃されます。半蔵は無念の思いから「残念」と叫び絶命。その死を悼み、長州軍が祠を建て奉ったのが「残念社」の由来になります。その後、昭和41年に地元の有志によって依田半蔵を奉る「依田神社」が建立されました。



1 2月21日に行われた社の披露と遷座。この日集まったのは、地域住民と宮島工業高校3年生とOB、48人。宮校3年生の藤原拓己さんは、「先輩方が引いた図面を基に、自分たちの代で完成できたことがよかったです。製材や組み立てで、難しいところもありましたが、地域に貢献でき、うれしく思います」と話してくれました。左から世話人の植松正盛さんと残念社・依田神社奉賛会長の銭谷百合正さん、宮校3年生の藤原さん。

地域で長く親しまれてきた依田神社ですが、年月と共に社の劣化が進み建て替えが必要となってきました。そこで、県立宮島工業高校建築科の3年生が平成26年から社の補修を開始。現存していた社から図面を引き、2年かけ完成させました。2月21日、社の披露と遷座が行われました。

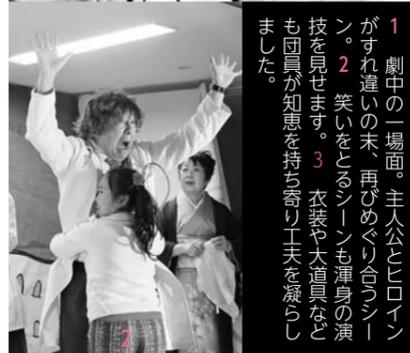
ワクワク小劇場好演

笑いあり、涙ありの 地域の小劇場

大野地域の住民有志による劇団「ワクワク小劇場」の公演が2月21日、六区集会所で行われました。

5回目の公演となる演目は「THE 愛染かつら」。戦後の昭和を舞台にし、一組の男女のすれ違いの恋愛模様を描きます。原作はテレビドラマや映画でも演じられてきた昭和の名作。初回から脚本・演出兼監督を担当してきた坪村福子さんは「幅広い年代の人に楽しめるよう、見た人が笑ってくれるようなシーンも織り交ぜながら作ってきました」と話します。

昨年の11月から練習を重ねてきた同劇団。「音響や集会所の利用など地域の力なくして公演することはできません。これからも地域で親しまれる劇団を目指していきたいです」と坪村さん。現在劇団員を募集中のこと。希望者はかねふさ美容室(下の浜)まで。



1 劇中の一場面。主人公ヒロインがすれ違いの末、再びめぐり合うシーン。2 笑いをとるシーンも渾身の演技を見せます。3 衣装や大道具なども団員が知恵を持ち寄り工夫を凝らしました。

プロフェッショナルキッチン

地元の旬を プロの技で調理

冬の味覚カキ。2月23日、原市民センターで地元、地御前産のカキと廿日市の野菜を使った料理教室、「プロフェッショナルキッチン」が開催されました。Ristorante Thomas(大野鯛の原)の増本年治さんを講師に招き、プロならではの技を体感。増本さんは「生産者が丹精込めて作り上げた食材をおいしく食べるためにも、食材と調理への理解を深めてほしいです」と話してくれました。



この日のメニューは「カキのフロレンス風グラタン」と「カキのアヒージョオイルパスタ」の2品。家庭での調理にも活用できる講座になりました。